

## 『宇佐神宮と六郷満山』 1 2月講話会のご報告

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。先月は、宇佐の文化財を守る会会長の小倉正五先生をお迎えして、宇佐神宮と六郷満山についてのお話を拝聴致しました。



小倉先生は、お話の中で、世界には一神教同士の激しい対立があるが、宇佐神宮と六郷満山の神仏習合の世界は、神道と仏教が和合されている姿であり、そこには宗教の和合の姿があると話されました。

その証として宇佐神宮の境内には、江戸時代までは、弥勒寺が存在し、神仏習合の姿がありました。ところが、残念なことに明治元年、神仏分離令により、その弥勒寺は取り壊され、今日に至っているのです。



《小倉正五先生のお話メモ：前回（7月）の内容を含めて》

ご神託①. 奈良時代、飢饉や疫病流行で社会不安が増大した時のことですが、聖武天皇は民の救済のため、奈良に大仏を建立することを決意します。ところが、建立反対の勢力が根強く、この時、宇佐八幡神は、「天の神、地の神を率いて、わが身をなげうって協力し、東大寺の建立を必ず成功させる」と託宣し、天皇を励まし、応援したのです。

②. また、大仏に塗る金箔が相当量不足し、唐から購入しようとする。渡航の安全祈願で宇佐神宮に立ち寄った時に八幡神は、「必ず国内から金が出るから心配いらない」との託宣を下しました。実際、神託の通り、陸奥の国（岩手県）から金が出て献納されたのです。

大仏開眼供養の時のことです。会場に八幡神が入場された時、内裏に『天下泰平』の文字が出現したと『東大寺縁起』に記されています。（宇佐神宮ホームページより）

③. 「道鏡を天皇につかせたならば天下は、太平になる」との宇佐神宮の偽りの報告に、天皇は驚き、ことの真偽を確かめるため、和氣清麻呂を宇佐神宮に派遣します。この時に下された神託は、『我が国は、開闢以来、君臣のこと、定まれり。臣をもって君とする、未だこれ非ず。天つ日嗣は、必ず皇緒を立てよ。無道の人にはよろしく早く掃除すべし。』というものでした。これにより日本の危機は、救われました。宇佐神宮への皇室からの信認はそれから厚く、勅使『宇佐使』は、今日まで続いています。次の勅使は、令和7年（2025年）に予定されているとのことです。



宇佐神宮 呉橋（勅使用）

これらから宇佐八幡神は、神道、仏教の枠を超え、国を守ってきた国家神のような存在のようです。

六郷満山 今回は、時間の関係もあり、部分的な説明になりました。主なところを記します。

- ①. 宇佐弥勒寺は、国東半島西部の桂川中流域にある智恩寺（豊後高田市来縄）等を拠点として国東半島へ影響・広がりを見せて行きました。六郷山は、宇佐神宮から半島沿岸部に向けて3つの区域（本山・中山・末山）に分けられ運営・統治されていきました。
- ②. 六郷山は、僧侶たちの修学、修行の地としての性格がありました。山岳寺院が立地する場所は、「一種の聖地であった可能性」（小倉正五先生）があります。
- ③. (朝鮮)半島系文化と畿内系文化が複合している姿が宇佐古代仏教の特質です。（青井勝久記）